

## ■ 経営学部基礎演習について

### 学習目標

経営学部基礎演習は、新入生の皆さんに、これから4年間、松山大学経営学部でしっかり学んでいただき、確実に成果を蓄積していくための基礎を身に付けていただくことを目的として開講されています。経営学部基礎演習では、読書指導、論文・レポート作成指導や情報検索指導などを行います。したがって、経営学部基礎演習は、2年次から始まる専門演習における学習・研究を効果的に進めていくために必要な知識や心構えを学ぶ重要な意味をもつ授業科目となっています。

経営学部基礎演習の具体的なテーマは、担当教員によってそれぞれ異なります。皆さんが選択した経営学部基礎演習の担当教員は、皆さんが2年次になってそれぞれの専門演習に分かれていくまでの間、皆さんの勉学面を中心とした相談に応じる指導教授としての役割を担っています。経営学部基礎演習は、指導教授のもと、15名程度の仲間と一緒に、ゼミナール形式で進められていくことになります。

留意しておいてほしいことは、「**経営学部基礎演習の単位を修得できていないものは、演習第一(2年次必修科目)を履修できない**」(「経営学部履修規程」第8条)という点です。したがって、経営学部基礎演習の単位を修得できていない人は、2年次からの専門演習を履修できません。

繰り返しになりますが、経営学部基礎演習の指導教授は皆さんが充実した大学生活を送る上で必要なさまざまな相談に応じますので、遠慮しないで指導教授の研究室のドアをノックしてみてください。

**※経営学部基礎演習(4単位)は、1年次生の必修科目です。次ページ以降を参照し必ず履修の申し込みをしてください。**

## ■ 経営学部基礎演習申込方法について

経営学部基礎演習担当教員の選択は、各担当教員の講義内容をよく読み、3つのグループそれぞれの中から履修を希望する担当教員を1名ずつ選び、担当教員の番号（グループ別担当教員表を参照）を「[入学手続 WEB 登録](#)」の際に希望登録してください。なお、必ず各グループそれぞれから1名の担当者を選択してください。（選択されていないグループがあった場合には、大学が適当な担当教員を選択します。また、希望する担当教員がない場合には空欄のままにしてください。）

また、申込者が多い場合には、1クラスの履修人数を制限しますので、希望していない演習担当者になる場合もありますがご了承ください。

グループ別担当教員表

第1グループ	1. 井上 修一	6. 田村 公一
	2. 上羽 博人	7. 田村 祐介
	3. 苅谷 寿夫	8. 中村 雅人
	4. 河内 俊樹	9. 成田 景堯
	5. 柴田 好則	10. 麓 仁美
第2グループ	11. 岩崎 瑛美	17. 東渕 則之
	12. 上杉 志朗	18. 中溝 晃介
	13. 加藤 大智	19. 平田 浩一
	14. 忽那 浩	20. 村上 宏之
	15. 田中 健吾	21. 情報コース新任教員
	16. 檀 裕也	
第3グループ	22. 安積みづの	27. 酒井 達郎
	23. 池上 真人	28. 日原 尚吾
	24. 伊勢本 大	29. 細川 美苗
	25. 神谷 厚徳	30. 松尾 博史
	26. 川口 仁志	

## ■ 経営学部基礎演習の講義内容

### 【第1グループ】

#### 1. 井上 修一

サブタイトル: 金融の基本

テーマと目的:

テキスト(ビジュアル金融の基本／高月昭年／日本経済新聞社)を輪読しながら、「金融」の基礎知識を身につけます。また、新聞などを利用して、いま世の中で起こっていることを調べます。

#### 2. 上羽 博人

サブタイトル: 貿易取引と国際分業の構造と変化

テーマと目的:

私たちの生活の中で日本製を探し出すことはとても難しくなっています。衣類や電化製品などの工業製品には中国製、ベトナム製などの原産国が表示されているので分かりやすいのですが、実は食品もかなり輸入が増えています。「そば」や「うどん」の原料が輸入されていることはよく知られていますが、日本製であっても実は海外とかかわりが深いものがあります、それは卵です。卵はすべて日本製ですが卵を産む鶏の飼料はほとんどが輸入された「とうもろこし」や「大豆」です。そして、多くの原料や製品が輸入できるのも日本の高い技術により作られた工業製品の輸出から得た外貨があるからです。

このゼミでは、貿易や国際分業の構造を中心に、愛媛県の産業と日本の他の地域との関係、海外との関係などについて学びます。

#### 3. 苅谷 寿夫

サブタイトル: 企業経営の分析

テーマと目的:

「よい企業」はどうやって見分ければよいのか。これは就職をはじめ様々な場面で重要な問題です。「よい企業」を知る一つの重要な方法が企業経営の成績などの数字を読み解くことです。そこで実際の企業の成績表(有価証券報告書)を用いて、企業実態の分析法について学習します。また、論文の読解や論理的な文章の書き方など、大学で必要とされる学習のスキルについても指導します。

## 4. 河内 俊樹

サブタイトル: 流通・マーケティングを題材に、アカデミック・スキルを身につける

テーマと目的:

本演習では、流通やマーケティング、地域活性化マーケティングに関する入門的な題材を取り上げながら、アカデミック・スキルを身につけることを目的とします。具体的には、大学での学習の仕方、レジュメやレポート作成の方法、発表の方法、資料収集・文献収集の方法、また大学生活で必須となる情報収集能力などを身につけて行くことを目的とします。その中では、折りに触れて、WordやExcel、PowerPointの使い方についても指導して行くことにします。

適宜グループ・ワークを取り入れながら作業を進めていき、基本的なことから順に学習していけるようにしたい、と考えています。

## 5. 柴田 好則

サブタイトル: マネジメントの基礎を学ぶ

テーマと目的:

この演習では、企業のマネジメントに関わる題材を取り上げ、アカデミック・スキルと社会人としての基礎能力を養うことを目的とします。たとえばビジネスのシミュレーション・ゲーム、ビジネス雑誌の記事読解、企業の分析、図解表現のためのトレーニングなどを実施します。

## 6. 田村 公一

サブタイトル: キャンパスライフプランの設計とビジネス基礎知識の習得

テーマと目的:

経営学部の基礎演習は、初年度教育科目として、新入生が大学生活にソフトランディングするために設置された講座です。大学では、4年次の卒業論文提出に向けた「研究」が重要な課題となり、中学・高校の「学習」とは異なる学生生活の姿勢と方法を身に付けておく必要があります。また、卒業後の「なりたい自分」を目指して、進路決定を視野に入れた4年間のキャンパスライフプランを、1年次の今から模索していくことが肝要です。

このような主旨から、本演習では、経営学を研究するにあたってのガイダンス、業界分析能力の育成を目指したビジネス雑誌の購読、資格取得に関する情報提供、ビジネス専門用語の理解、人事担当者を唸らせるエントリーシートの書き方、日本経済新聞の活用方法など、諸々のアプローチから、皆さんのキャンパスライフをサポートできるような演習にしていきたいと考えています。

光陰矢のごとし。先輩たちは皆一様に、「4年間はとても早かったです」と言って卒業していきます。皆さんも充実した大学生活をかたち作るために、切磋琢磨して下さるよう希望致しております。

## 7. 田村 祐介

サブタイトル: 大学で学ぶための基礎的技法の習得

テーマと目的:

高校と大学の学習は違うと言われます。それでは何が違うのかを円周率を例に考えてみましょう。円周率は3.14であると教えられた(=暗記させられた)と思います。しかし根本的な問題として円周率とは何で、なぜ3.14になるのでしょうか。

以上から高校と大学の学習の違いは、現象の理解の深度になると言えます。

本演習は大学で学ぶための下準備として基礎的な技法の習得を目指します。具体的には本を輪読し、各回報告者を決め報告してもらい議論します。

## 8. 中村 雅人

サブタイトル: 保険の基礎を学ぶ

テーマと目的:

本演習では、集合授業において入学後の学生生活に必要な基本事項について学ぶと共に、個別授業においては、特に指定の教科書を用いて保険の基礎を学びます。その目的は、知識の習得はもちろんのことですが、文献の精読能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力の向上にあります。これらの能力は、今後の学生生活においてはもとより、社会に出ても必要とされる能力であり、積極的に演習に参加することが望まれます。

## 9. 成田 景堯

サブタイトル: 覚える勉強から考える勉強への実践的学習

テーマと目的:

この演習では、高校までの答えを覚える勉強ではなく、自ら問題設定し・調査し・発表やディスカッションなどを通じて、その解答を見つけていく考える勉強を実践していきます。具体的には、最初の何回かの演習は考える勉強に必要なスキルについて学び、その後は班に分かれてテーマに合わせて考える勉強を実践してもらい、その方法を身につけていくことを目標とします。

## 10. 麓 仁美

サブタイトル: 経営学の学び方を学ぶ

テーマと目的:

この演習では、経営学の中でも、モチベーションやリーダーシップ、キャリアなどの企業組織にかかわる人の問題について学んでいきます。重要なトピック1つ1つについて、グループワークを行ったり、映像を見たりします。それらを通して、経営学の基礎を身に付け、身の回りの問題を経営学的な視点で見られるようになることを目指します。

## 【第2グループ】

### 11. 岩崎 瑛美

サブタイトル: 会計学の基礎とアカデミックスキルを身につける

テーマと目的:

この演習では、会計学の基礎を学ぶとともに、報告スキルを身につけます。そこで、簿記などの基礎的な会計学の知識を習得しながら、企業が公表する情報を利用し、財務分析を行ってみます。さらに、大学での学習で必要となるレポートやパワーポイントの作成方法を学びます。最終的には、演習で取り組んだ財務分析の結果を発表することを通して、プレゼンテーションスキルを身につけることを目指します。

### 12. 上杉 志朗

サブタイトル: ICT(情報通信技術)を使いこなす準備運動

テーマと目的:

ICT(情報通信技術)を使いこなせると色々便利です。人によっては、高校時代の「情報」の授業で、もう「情報」はコリゴリ、と思っているかもしれませんが、教科の試験科目から離れて「情報」について勉強してみると、役立つことが多いことが分かります。「ICT=情報+コミュニケーション+技術」の、役立て方を「プレゼンテーション」「コミュニケーション」「ネットワーク」をキーワードに、大学生活全般との関わりを含めて学びます。

### 13. 加藤 大智

サブタイトル: 大学生に必要なスキルを身につけ、経営学部で学びたいことを考える

テーマと目的:

大学で学ぶにあたって、高校生のときの学習のように決まった範囲を受け身で覚えるだけでは不十分です。大学では、分からないことを自分で調べ、自分の意見や考えを人に伝えるスキルが必要になってきます。授業では、大学生として求められる、文献の読み方、レポートの書き方、メールの書き方などを学びます。そして、取得したスキルの実践として、経営学部で学べる科目について自身でまとめ、報告をしてもらいます。

### 14. 忽那 浩

サブタイトル: コミュニケーション能力とICT活用力のスキルアップ

テーマと目的:

対人関係において大切なコミュニケーション能力について考え、コミュニケーションスキルの向上を目指します。社会人として、良好な人間関係を築くために、何が必要とされ、何が足りないのかについて、話し合いを通して学びます。また、心を動かすプレゼンテーション力のスキルアップのために必要な、伝え方やICTの効果的な活用方法について実習を通して学びます。

## 15. 田中 健吾

サブタイトル:新しい情報技術を学ぶ経験をしよう

テーマと目的:

本演習ではRPA(Robotic Process Automation)という比較的新しい情報技術を学びます。RPAはソフトウェアロボットとも呼ばれ、最近、様々な企業や組織で活用がはじまっています。RPAの初歩を学ぶことで、新しい情報技術を身に付け、自分で応用する楽しさを体験してもらうことを目標としています。(注意:受講者はWindows 11(または10)端末を準備してください)

## 16. 檀 裕也

サブタイトル:グループワークによる映像制作

テーマと目的:

情報分野の知識やスキルを基礎に、地域や大学の魅力を伝える映像をグループワークによって制作し、カメラによる撮影技術や編集による映像表現について学ぶとともに、思考力や問題解決力、コミュニケーション能力を高めます。通常の実用カメラやスマートフォンのカメラを使いますが、360度VRカメラやドローンによる撮影にも触れる予定です。松山城や道後商店街などにフィールドワークに出かける場合があります。

## 17. 東淵 則之

サブタイトル:マインドマップで良い会社づくりと起業について考える

テーマと目的:

まず、情報の収集、処理、発信について学びます。具体的には、マインドマップと呼ばれる図を使った情報の関連付けについて学びます。その際、必要に応じてPCを使用します。次に、マインドマップを使った本の読み方、情報の集め方と整理の仕方、文章の書き方を学びます。これらを学ぶ際の素材は、「良い会社づくり」や「起業」に関するもので、必要に応じて、企業での優れた実践事例の動画も使用します。これらを通じて、今後、経営学部で学ぶための基礎を育んでもらいます。

## 18. 中溝 晃介

サブタイトル:会計×データサイエンス

テーマと目的:

この演習では、会計データの分析方法を学びます。本格的に分析するためには上級生で開講している科目を履修しなければなりません、その基礎となる簡単な分析をパソコンを使って実施していきます。その過程で、会計数値の読み取り方、パソコンの使い方といった知識を学び、グループワークやプレゼンテーション、レポートの作成などを通じて2年次移行に必要なスキルを身に付けていきます。

会計やパソコンに自信がなくても、少人数の授業では気軽に質問ができます。他のゼミ生とコミュニケーションを取りながら、積極的に学んでいきましょう。

## 19. 平田 浩一

サブタイトル: コンピュータを大学での学びに活用しよう

テーマと目的:

コンピュータおよびICT(情報通信技術)を使いこなすことができるようになると、大学での学びもより一層深まります。情報を収集する・情報を分析する・レポートを書くといった作業は「大学での学び」そのものです。さらに、プレゼンテーション・ネットコミュニケーションなどの情報発信力もみにつけ、ノートパソコン・携帯端末を多くの場面で活用できるようになりましょう。ICTを活用して学生生活を一層充実させることを目指します。

## 20. 村上 宏之

サブタイトル: 初めて簿記を学ぶ人のために

テーマと目的:

簿記を初めて学ぶ人のために、簿記(商業簿記)を基礎から学習します。また、論文の読解や論理的な文章の書き方など、大学生に必要とされる基本的な学習スキルについても指導します。

## 21. 情報コース新任教員

サブタイトル: パソコン、インターネットを使いこなして、実りある毎日を送ろう

テーマと目的:

パソコンやスマホ、インターネットの活用は、実りある毎日へのカギです。的確に情報を収集したり、それをヒントに仲間とアイデアをまとめ次の行動を決めたり、一緒にクリエイティブな作品を仕上げたり…もちろん、セキュリティリスクは上手に避けましょう。

この演習では、そんな大学生活のための基本を身に付けます。

## 【第3グループ】

## 22. 安積みづの

サブタイトル: 大学生としての学習スキルを習得する

テーマと目的:

この授業は、皆さんができるだけ早く大学の授業に慣れるように、大学生としての学習スキルを身につけることを目標にしています。具体的には、図書館での文献の探し方や、レジュメのまとめ方、レポートの書き方、発表の仕方などです。授業では、具体例を挙げて書く、理由を示して書く練習や、各自が選んだテーマで発表し、それについて議論する練習をしています。全員が参加できるように、これまで、各自が地元のお菓子を紹介して皆で食べたり、皆で選んだ短編映画を見て話し合ったり、皆で決めたメニューで料理して食べる企画などもやりました。一緒に頑張りましょう！

## 23. 池上 真人

サブタイトル: 大学生としての基礎力を身につける

テーマと目的:

高校までの学習は、与えられた情報を理解して記憶する「受動的」な学習が中心であったと思いますが、大学では、様々な情報に対して自分の頭で考え、自分なりの意見を持つ「主体的」な学習をしていく必要があります。そのため、この演習ではこれから大学で学んでいく上で必要となる知識やスキルを学び「主体的」な学習ができるようになることを目指します。具体的には「対人コミュニケーション」というテーマについて学びながら、情報の集め方、情報(書籍を含む)の読み方、考察の仕方、意見の述べ方、議論の仕方、レポートの書き方などを学んでいきます。

## 24. 伊勢本 大

サブタイトル: 大学で必要な力を身につける

テーマと目的:

本授業は、大学生活を過ごすにおいて、とくに、授業を受けるために必要な技法の習得を目的としています。

レポートや論文、ディスカッション、さらにはメールの書き方・作法まで、大学の授業のなかで求められる力とは、大学生になるまでのそれと大きく異なることがあります。そうした1つ1つを実際に経験し、自分の力として身につけながら、この先の大学生活をどのように過ごしていくのか、についても含めて考えていきましょう。

## 25. 神谷 厚徳

サブタイトル: 大学生に必要な基本的学習スキルを身に付ける

テーマと目的:

この演習では皆さんが積極的に授業に参加していただけるように、各々が興味のあるテーマを選定し、それを題材に今後必要不可欠となる、研究手法、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法といった基本的な学習スキルについて学んでいきます。また、グループワークを取り入れ、「他者と協力する力」「ディスカッション能力の強化」を目指します。

## 26. 川口 仁志

サブタイトル: 世界の子ども・日本の子ども

テーマと目的:

世界に目を向けると、貧しい暮らしのなかで、学校に行ったことのない子ども、つらい労働を強いられている子どもがたくさんいます。貧困地域では、ストリートチルドレンになってしまう子どもや、紛争地域では、兵士として戦う子どももいます。この授業では、世界の子どもたちのおかれている厳しい現実と、それでもたくましく生きる子どもたちの姿について学びながら、みなさんが感じたこと考えたことをお互いに伝え合い、コミュニケーションのスキルを身につけます。

一方で、豊かさを手にしたはずの日本でも、貧しさに直面している子どもたちがいます。医療費が払えないために病院に行けない子ども、修学旅行に参加できない子ども、給食費が払えない家庭など、経済的な問題に苦しむ子どもは少なくありません。この授業の後半では、私たちの身近で起こっている子どもの貧困の問題について学びます。具体的には、テキストの内容を発表してもらいながら、プレゼンテーションの技術も磨きたいと考えています。

## 27. 酒井 達郎

サブタイトル: ライフスキルとスポーツについて

テーマと目的:

メインテーマは現代のスポーツです。スポーツにかかわる様々な問題を取り上げていきます。例えば、ライフスキルを獲得するにはスポーツが有用だと言われています。これを踏まえ、歴史と様々なスポーツ成立の背景、身体活動としてのスポーツ、スポーツと健康といったテーマから、自分にとってスポーツの持つ意味を考えていきます。大学での研究の仕方を現代社会における健康とライフスキル、スポーツを題材としながら学んでいきます。

## 28. 日原 尚吾

サブタイトル: 人が抱える悩みと支援, 幸福の心理学

テーマと目的:

人は、人間関係や将来の進路、過去の出来事などについて、様々な悩みを抱えることがあります。この演習では、社会の中で人が抱える様々な悩みとその支援のあり方について、心理学の文献の輪読や、動画の視聴、グループワーク、発表、レポート執筆などを通して学びます。また、そうした活動の中で、大学生生活を過ごすために役立つ様々な知識やスキル(PCの使い方、文献の読み方、発表など)を身に付けます。

## 29. 細川 美苗

サブタイトル: 英文学について学ぼう

テーマと目的:

テキストを読み英語圏諸国の歴史や文化について学ぶ。個人やグループでテーマ研究と発表をしてもらうこともある。

## 30. 松尾 博史

サブタイトル: 大学で必要な学習のテクニックを学ぶ・体験する、社会問題に取り組む

テーマと目的:

高校までの学習の仕方と、大学で必要とされる学習方法はかなり違います。この演習では、大学での学習にスムーズに入っていくためのやり方を学びます。前期は、これまでとは違うどんな学びの可能性が大学では開かれうるのか、具体的な作業を通して体験していきましょう。実践的には、図書館の利用法、情報収集の方法、テーマの絞り込み、レポート・論文の書き方、口頭発表の仕方、ハンドアウトのまとめ方、議論の仕方等が各回の作業テーマとなります。後期は、経済発展の問題、憲法と自衛隊、民主主義と政治参加など、アクチュアルな社会問題を取り扱います。

興味のあるテーマを選び、履修者全員が、前後期とも一度は授業のメインになります。毎回、学生2名程が担当者となり、担当者が中心となって演習を運営します。担当する回の事前には、指導教授との綿密な打ち合わせと準備作業が必要です。

以上